

# 令和6年度「県民と宮城県議会議員との意見交換会」報告書

## ■ 概要

### 1 実施日時

令和6年9月3日（火） 午後1時30分から午後3時30分まで

### 2 場 所

宮城県議会庁舎 1階ラウンジ

### 3 参加者

- 一般参加者 14人
- 企画広報委員会委員 8人 （※このほか、議長が参加）

### 4 日 程

#### （1）開会行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13:30～

- イ 開会
- ロ 企画広報委員長挨拶
- ハ 議長挨拶
- ニ 出席議員紹介

#### （2）意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13:40～

- イ 議会の仕組み
- ロ 選挙について
- ハ グループディスカッション  
テーマ「考えよう どうしたら県議選の投票率を上げることができるのか」
- ニ 各グループ代表委員による意見紹介

#### （3）閉会行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15:15～

- イ 記念撮影
- ロ 記念品贈呈
- ハ 副委員長挨拶
- ニ 閉会

## ■ 意見交換

### 1 意見交換の概要

県議会庁舎1階ラウンジにおいて、「考えよう どうしたら県議選の投票率を上げることができるのか」をテーマとし、参加者14人が4グループに分かれ、企画広報委員と意見交換を行った。

## 2 参加者からの主な意見

### (1) 政策・争点について

- ・どうしても国政のほうが共通の課題認識が多い。争点に地元や身近なことが関わってくると、自分の考え方に近い候補者を調べて、投票に繋がっていくと思う。
- ・有権者がアンケートに答えると、自身の考えに近い候補者や政党を知ることができるボートマッチ（投票マッチング）ツールがあると、誰に投票するかの指標にできる。
- ・誰に投票するかは、やはり政策で選びたい。何をしてくれるのか、そうした政治への期待というのが選挙にとっては重要だと思う。
- ・若者向けの政策や公約も発信し、取り上げてほしい。
- ・本来は、政治は隣にあるはずのものだが、遠く、お堅いものであると感じてしまっている。
- ・例えば公営バスの便数減や、通学路の安全確保策など、日頃の生活や、見聞きしていることが、政治に直結するという実感がなく、議員がどのように関与しているのか分からない。政治や選挙が身近になるような政策発信が必要ではないか。

### (2) 主権者教育について

- ・主権者教育が少ないと感じる。中学生の頃から模擬投票を行うなど、主権者教育の充実が必要ではないか。
- ・投票率の高いドイツのように、有権者になるための教育や、選挙の意味を早い時期から考えられるような教育の在り方が必要ではないか。
- ・日本では、政治や選挙に関して発信・発言すること自体がタブー視されていると感じる。家族や友人と政治を語る機会も少ない。家族や周りの影響で選挙に行かないということもあるのではないか。
- ・「誰に投票しても変わらない」「いまの政治に文句は無い」「変わらなくてもいい」という若者もいるが、まず投票に行くという行動・雰囲気、全体として高めていくようなアプローチが必要ではないか。
- ・自分の趣向に合った情報が自動的に流れてくる時代のため、若者は自分で調べるということをしない。「権利の上に眠るな」という言葉があるように、自動的に情報が流れてくることに甘えては何も主張できないので、しっかりと権利を行使できるよう、自分たちも勉強していかなくてはいけない。
- ・若い世代の有権者が、自ら「こうして欲しい」「こうありたい」という政策発信をしていくことも重要ではないか。

### (3) 周知方法について

- ・若者は、テレビよりY o u T u b eやSNSが主な情報源であることから、ネット広告で選挙期間と投票日を周知すれば良いのではないか。
- ・アメリカの選挙のように、若者に人気のあるインフルエンサー等が宣伝してはどうか。
- ・選挙の日程は、選挙ポスターが貼られている公営掲示板で知ることが多いが、設置されている場所を通らなければ、候補者の顔と名前を知ることができない人もいるのではないか。
- ・直近の都知事選は、テレビなどで候補者の露出が多かった。若い人が見てくれるような、選挙に興味を持ってもらえるような、エンターテイメント的な発信の仕方が必要ではないか。
- ・投票日が近づいてきたら音楽を流す、花火を打ち上げるなどしてはどうか。
- ・センキョ割の存在は何となく分かっていたが、どこで使えるのか、どのくらいの割引なのかということが分からなかった。もっと情報を発信して欲しかった。

### (4) 投票方法について

- ・大学生は住民票を移さずに他県に居住していることも多い。不在者投票の仕組みがまだまだ使いやすいものになっていないので、手続きをしようと思っても、すでに選挙期間が終わってしまっているということがあった。不在者投票の仕組みの改善が必要ではないか。
- ・自身が18歳になって初めての選挙の時は、とても嬉しくて投票に行ったが、受験期でもあったため、投票に行くことができなかった友人もいた。移動投票所があると、投票所に行けない人や、足が悪い方の投票率も上げられるのではないか。

### (4) 県議会議員について

- ・議員のことを知る機会が無い。
- ・20代は進学や就職に伴って他県等から転居してくることも多い年代であり、居住地のことや選出議員のことが分からないまま選挙が行われることもある。そうした情報を知る機会があると良い。
- ・実際に議員と話してみて、決して堅い存在ではなく、熱い想いを持っていることを知ることができた。有権者の側が、議員や政治家に対するイメージや価値観を、変えていく必要もあるのではないか。

## ■ 意見の取扱い

県議会内で共有し、今後の議会活動に活かしていく。

## ■ 意見交換会の様子



